

ジュラ紀/白亜紀の東アジア陸海域境界環境における微生物相の多様性と進化



大学院理工学研究部(理学)
准教授 柏木 健司

研究のキーワード

微化石、放散虫、海綿骨針、中生代、手取層群

研究の内容

ジュラ紀から白亜紀にかけての東アジア東縁の、陸海域境界における浅海域で進展した生物相の多様性と進化を明らかにする。その主たる対象となる微化石は、放散虫、浮遊性および底生有孔虫、海綿骨針、軟体動物類の原殻、貝形虫、珪藻、およびイクチオリスなど様々である。一連の研究を通して、ジュラ紀中世-白亜紀古世の手取層群堆積盆(陸域-浅海域堆積盆)には、極めて多様性の高い微生物相が成立していたことが明らかになりつつある。

産学連携・特許

科研費等外部資金

平成23-25年度 基盤研究C「東アジア東縁のジュラ紀-白亜紀の微化石相および海洋古環境解析」(代表)

その他、社会貢献・受賞など

研究の概要図

